解答速報

医歯専門予備校 メルリックス学院 MELURIX × 医学部受験予備校 医特

藤田医科大学 ふじた未来入試

英語

模範解答

問題番号		解答記号	正解	難易度
第１問	問１	1	(1)	標準
	問２	2	(1)	標準
	問３	3	(2)	やや難
	問４	4	(2)	標準
	問５	5	(4)	標準
	問６	6	(2)	標準
	問７	7	(1)	標準
	問８	8	(4)	標準
第２問	問１	9	(7)	標準
		10	(5)	
	問２	11	(3)	標準
		12	(1)	
	問３	13	(3)	標準
		14	(2)	
	問４	15	(7)	やや難
		16	(1)	
第３問	問１	17	(3)	標準
	問２	18	(4)	
	問３	19	(1)	
第４問	問１	20	(2)	標準
	問２	21	(4)	
	問３	22	(1)	

問題番号		正解
第５問	問１	ペスト菌は当初は比較的弱毒で、農耕と都市の発達後に致死的な流行を起こすようになったという従来の見解。(50 字)
	問２	（5000 ないし 5500 年前のペスト菌は、） 現代と異なりノミを介さず、感染したげっ歯類からヒトへ直接感染したと推測される。 （39 字）
	問３	ペストで死者した人の歯や骨にはペスト菌が入り込み、そのＤＮＡが数千年間保存されたことが明らかになったから。
	問４	約５５００年前のバイカル湖周辺の狩猟採集民の３９％からペスト菌のＤＮＡが見つかり、約３０００マイル西方のラトビアの古代遺骨の菌のＤＮＡとも極めて似ていたこと。 （79 字）
	問５	【う】
第６問	(1)	it provides a rare opportunity to understand how ecosystems can recover from these rapid changes.
	(2)	they found that the time it took for the sediment to accumulate was actually shorter than the tens of thousands of years previously estimated.
	(3)	they concluded that the sky cleared quickly after a brief period of darkness during which soot and dust filled the atmosphere.

解説

第１問　＜標準～やや難＞

文法語法問題の第１問は例年通り標準的な問題場からだった。常日頃から基本に忠実に勉強を積み重ねている受験生はミスが少なかったのではないだろうか。ただし最後の問８は感嘆文ととらえるのか疑問文ととらえるのかで別れるところだが、？がついているので疑問文ととらえればよいだろう。その他の点では問３は比較的関係詞でも難易度の高いところになっている。しかし参考書の細かいところには載っている文法事項なので是非押さえよう。問２．問４．問６などは点数を稼げる問題なので落とさないでいってほしい。２ミスくらいにとどめたい。

問1. make it a point to do :～するようにしている　という不定詞の定型表現
問2. How dare S＋原形：よくもまあ～するものだ　という助動詞の定型表現
問3. the nuisance を先行詞にする関係詞。関係詞以降が補語になる場合は関係詞 that を使う
問4. now that:今やもう～なので　という接続詞
問5. thrill は（人を）わくわくさせるという他動詞　単語の問題
問6. every も each も単数扱いのため、(1)(3)は消える。every は形容詞なので every of という言い方はしない。
問7. 動名詞の問題　catching とあうので for をまず選ぶ。否定は動名詞の直前したがって(1)が正解
問8. what が名詞 drama を修飾し、後ろに疑問文の語順（is she watching）が続く。

第２問　＜標準～やや難＞

例年に比べたら、どうしても解けないような問題はなかったように思われる。問３は it that の強調構文で疑問詞を強調している形である。これは頻出なので是非落とさず行ってほしい。最後は not(without)so much as ～ing で「～することさえなく」という比較の範囲に出てくる重要構文である。１ミスでとどめたい。

問1. He is too kind not to help a stranger.
　　too＋形容詞＋not to do：とても～なので…せずにはいられない

問2. The police is taking measures to protect residents from falling victim to vicious crimes.
　　take measures:対策を講じる　protect A from ～ing　fall victim to: ～の被害者になる

問3. What was it that caused the accident?
　　疑問詞の強調構文

問4. The proposal was rejected without so much as being considered by the board.
　　without so much as ～ing：～することさえなく　比較の範囲

第３問　＜標準＞

ネット検索をすると、外部にある情報を自分の知識と混同して自己評価が高まるという心理学的な話題。実験群と対照群の違いを捉え、検索内容とは無関係な分野にも効果が及ぶ点を読めるかが鍵となる。選択肢の根拠は本文中に比較的明確で、抽象的なテーマに戸惑わず設問に必要な情報を拾えば対応できる。全問正解を狙いたい。

第４問　＜標準＞

客観的な人間関係の少なさと、主観的な孤独感の区別を中心とする医療・社会科学系の英文。定義と研究結果を丁寧に区別できれば正答できる標準レベルの内容一致問題が中心。全問正解もしくは１ミスでとどめたい。

第５問　＜やや難＞

「古代ペスト菌」についての英文。考古学の内容も入っている藤田医科大学らしい長文。例年とさほど大きな差はないが、字数制限をした問題が近年は増えている。問１は model で悩んだ受験生も多いと思うが研究者の旧説であると推論すれば解答を導けるだろう。問２と問４は字数制限があるのでどこまでを盛り込んで書くのかが腕の見せ所になったであろう。

第６問　＜難＞

今回は例年より英文が長い。さっと目を通して英作に取り掛かりたい。(2)や(3)など、名詞にかかる修飾語が長いなど書きにくさはあり、決して簡単ではない。しかし日ごろ英作の練習している受験生は臆することなく書けたのではないだろうか。

講評

今年度の英語は、第１問が文法・語法８題、第２問が語句整序４題、第３・４問がマーク式の長文読解、第５問が日本語記述を含む長文読解、第６問が和文英訳という、近年の出題形式を踏襲した。

第１問は定型表現や語法、関係詞・感嘆文などの知識が中心で、大半は標準レベルであった。第２問は複数の構文を組み合わせる整序問題で、特に without so much as ～ing を含む設問は受験生によって差がついたとみられる。第３問はインターネット検索による知識の過大評価、第４問は社会的孤立・孤独感と心不全を題材とする英文で、本文の定義と実験・研究結果を正確に捉えることが重要であった。第５問は古代ペスト菌の DNA 研究を題材に、複数箇所の情報を整理して日本語で簡潔に説明する力が問われた。第６問は生態系の回復に関する科学記事の和文英訳で、前後の英文と主語・論理関係を一致させる必要がある。

全体として、出題形式や問題量は例年並みであった。マーク式問題は比較的取り組みやすかった一方、記述・英作文では正確な読解力に加えて表現力も求められ、やや難度が高かった。マーク式問題の易化と記述式問題の難化を総合すると、全体の難易度は前年度並みと考えられる。合格に向けては、英語で 60～65％程度の得点を確保しておきたいところである。

メルマガ登録（無料）または LINE 公式アカウント友だち登録（無料）で全教科閲覧できます！
メルマガ登録は左の QR コードから、LINE 友達登録は右の QR コードから行えます。

渋谷校
0120-142-760
東京都渋谷区桜丘町 6-2

名古屋校
0120-148-959
名古屋市中村区名駅 2-41-5
CK20 名駅前ビル 2F

大阪校
0120-142-767
大阪府吹田市広芝町４－３４
江坂第１ビル 3F

個別専門館
麹町 FC 校
TEL：03-6272-4175
東京都千代田区二番町 8-20

提携校
医学部特訓塾
TEL：03-6279-9927
東京都杉並区阿佐谷南 3-37-2
第二大同ビル 2F